

2026年度 外国人留学生 大学院(修士課程)入学試験問題

(経済学研究科)

(科目名:日本語による小論文)

2025年11月8日(土)

受験番号		氏名	
------	--	----	--

問題A・Bからどちらかの問題を選び、解答しなさい。解答の際に、解答用紙の冒頭に選択した問題記号(問題Aあるいは問題B)を明記すること。

問題A

次の文章を読み、以下の問いに答えなさい。

【引用部分は削除しています】

資料:平賀緑『食べものから学ぶ現代社会』岩波ジュニア新書(2024)166~167より抜粋。一部改訂。

- (1) GDPの三面等価について、400字程度で説明しなさい。
- (2) 第二段落では民間最終消費支出として寄与する付加価値と、寄与しない人間の活動を対照的に紹介し、前者が「交換価値」を重視し後者が「使用価値」を重視している可能性を示唆しています。あなたの周りの人間の活動の中から「交換価値」以外の価値について注目されている事例を400字程度で紹介してください。

問題 8

2025年度『経済財政白書』では、経済連携協定締結による貿易拡大効果を検証するため、重力モデルを用いた推定を行っている。日本と世界全体に対して貿易拡大効果を分析している。以下は分析に用いた回帰式、表は推定結果である。表には回帰式の定数項 α と係数 β の推定値、有意性が示されている。なお使用した変数の説明や重力モデルの詳細な説明は<参考>を参照にされたい。

推定式

<日本>

$$Trade_{it} = \exp(\alpha + \beta_1 FTA_{it} + \beta_2 \ln GDP_{it} + \beta_3 \ln GDPCAP_{it} + \beta_4 \ln Dist_{it} + \lambda_i + \mu_t + \varepsilon_{it})$$

<世界全体>

$$Trade_{ijt} = \exp(\alpha + \beta_1 FTA_{ijt} + \beta_2 \ln GDP_{ijt} + \beta_3 \ln GDP_{ijt} + \beta_4 \ln GDPCAP_{ijt} + \beta_5 \ln GDPCAP_{ijt} + \beta_6 \ln Dist_{ijt} + \beta_7 Comlang_{ijt} + \beta_8 Contig_{ijt} + \lambda_i + \eta_j + \mu_t + \varepsilon_{ijt})$$

注) exp は指数関数

表1 推定結果 (日本)

	貿易総額	輸出額	輸入額
地域貿易協定ダミー	0.136***	0.112***	0.168***
相手国GDP	-1.145***	0.236***	0.493***
相手国一人当たりGDP	0.943***	0.589***	0.253***
距離	-0.923***	-1.705***	-0.108
定数項	10.26***	21.16***	-1.084
観測数	9,501	9,687	9,506

***は、1%水準で統計的に有意

上記のほかにも、貿易相手国ダミー、年ダミーも分析に加えている

表2 推定結果 (世界全体)

	貿易額
地域貿易協定ダミー	0.351***
GDP (輸出国)	0.381***
GDP (輸入国)	0.546***
一人当たりGDP (輸出国)	0.274***

一人当たりGDP（輸入国）	0.107***
距離	-0.630***
共通言語ダミー	0.0853***
隣接国ダミー	0.533***
定数項	-3.317***
観測数	840,142

***は、1%水準で統計的に有意

上記のほかにも、輸出国ダミー、輸入国ダミー、年ダミーも分析に加えている

問1 推定結果から日本と世界全体について、地域貿易協定ダミーの係数の符号と有意性から経済連携協定締結による貿易拡大効果を説明しなさい。(200字程度)

問2 自由貿易を促進するために各国は地域貿易協定を締結して自由貿易のメリットを享受しようとしている。一方でドナルド・トランプアメリカ大統領は貿易相手国に高関税をかける政策を発表している。高関税は自国、貿易相手国、ひいては世界全体にどのような影響を与えるか論理的に説明しなさい。(400字程度)

問3 日本では将来人口減少による労働力不足に陥る可能性がある。そのため、外国からの移民の受け入れが議論されてきた。一般的に移民受け入れが国内の社会や経済に与える影響について、プラス・マイナス両面から論じなさい。(400字程度)

<参考>

1. 使用した変数と係数の定義

<日本>

変数・係数名	定義
$Trade_{it}$	t 年の日本と国 i との間の貿易額（輸出額、輸入額、貿易総額）単位：億ドル
FTA_{it}	t 年において日本と国 i との間で地域貿易協定が結ばれているか否かを示すダミー変数
GDP_{it}	t 年における国 i の名目GDP（市場為替レートで米ドル換算）単位：億ドル
$GDPCAP_{it}$	t 年における国 i の名目一人当たりGDP（市場為替レートで米ドル換算）単位：万ドル
$Dist_i$	国 i における最も人口の多い都市と東京との距離 単位：km
λ_i	国 i の固定効果
μ_t	時間固定効果
ε_{ijt}	誤差項

<世界全体>

変数・係数名	定義
$Trade_{ijt}$	t 年における国 i から国 j への輸出額（市場為替レートで米ドル換算）単位：億ドル
FTA_{ijt}	t 年において国 i と国 j との間で地域貿易協定が結ばれているか否かを示すダミー変数
GDP_{it}	t 年における国 i の名目GDP（市場為替レートで米ドル換算）単位：億ドル
$GDPCAP_{it}$	t 年における国 i の名目一人当たりGDP（市場為替レートで米ドル換算）単位：万ドル
$Dist_{ij}$	国 i と国 j における最も人口の多い都市間の距離 単位：km
$Comlang_{ij}$	国 i と国 j の公用語が共通であるか否かを表すダミー変数
$Contig_{ij}$	国 i と国 j の国境が接しているか否かを表すダミー変数
λ_i	国 i （輸出国）の固定効果
η_j	国 j （輸入国）の固定効果
μ_t	時間固定効果
ε_{ijt}	誤差項

2. データ：フランス国際経済予測研究センター（CEPII）が提供する重力モデルを推定するためのデータベースである CEPII Gravity Database を利用、期間は 1962 年から 2020 年

3. 推定方法：重力モデルは、物理学の万有引力の法則（二つの物体間に働く力は二つの物体の質量の積が大きいほど大きく、二つの物体間の距離が遠いほど小さくなる）を国家間の貿易に応用したモデルであり、国*i*と国*j*との間の貿易額には、以下のような関係が成り立つと仮定している。

$$\text{貿易額}_{ij} = A \times (GDP_i \times GDP_j) / \text{距離}_{ij}$$

貿易額_{ij}は、国*i*と国*j*の貿易額であり、*A*は定数、*GDP_i*と*GDP_j*はそれぞれ国*i*と国*j*の GDP、距離_{ij}は国*i*と国*j*の間の距離を表している。

推定に当たっては、Okabe (2015) や山ノ内 (2017)、曾山 (2018) を参考に、Santos Silva and Tenreiro (2006) で示されたポワソン疑似最尤法を用いる。

参考と引用：令和 7 年度（2025 年度）『経済財政白書』「付注 3-3 重力モデルによる経済連携協定締結による貿易拡大効果の推定」p466-470